

坂出・綾歌支部メディア教育研究部会活動報告

研究主題

「自ら学び、自ら考え行動する生徒の育成」
ーさまざまなメディアを活用し、
主体的に学習する生徒の育成ー

1 研究主題について

「生きる力」を育むという新学習指導要領の基本理念を実現するため、思考力・判断力・表現力の育成や確かな学力を確立するために必要な時間の確保などがポイントとしてあげられている。特に、多様な情報の中から必要な情報を効率的に選択し、それらをもとに自分の考えや思いを主体的に表現・発信する力の育成を図ることが学校教育に求められていると考えられる。それはまさにメディア教育の担う役割であり、加速化する高度情報化社会の中においてその役割はますます大きくなってきている。そこで、本部会では、さまざまなメディアの活用を推進し、その活用方法を探ることにより、主体的に学習する生徒の育成を図りたいと考え、本主題を設定した。

2 研究の進め方

(1) 研究の概要

各校の授業実践・研究授業・研究討議を通して主題に迫る。

(2) 研究の経過

ア 4月20日（綾川町立綾南中学校）
研究組織及び主題の決定、研究の進め方についての共通理解

イ 7月6日（綾川町立綾南中学校）
研究授業、研究討議、各中学校での実践事例についての情報交換

3 研究と実践

(1) 研究授業

ア 第2学年3組 道徳

＜主題＞公德心，社会連帯，よりよい社会の実現「4－（3）」

＜資料名＞DVD「ポイ捨てをどうなくす」（NHK 道徳ドキュメント）

＜授業者＞綾川町立綾南中学校
鷲辺 章宏

イ 本授業の主張点

生徒にとって身近な話題であるゴミのポイ捨てから，一人一人がマナーやモラルを守って行動することが大切であると気付くとともに，よりよい社会の実現への考えを深めていくために次のような手立てを考えた。

○ 映像教材を効果的に利用することによって当事者の表情や生の言葉から，その人の思いをより深く感じさせる。

○ DVDをいくつか分割して見せることで，先への展開や結論が分からない状態で生徒に考えさせる。

○ パソコンとプロジェクターを用いて話の流れの説明や発問を行うことで，板書の時間を短縮するとともに，生徒の思考を途切れさせないようにする。

ウ 授業者から

生徒が話の展開に注目し，登場人物の心情を感じるとともに，展開の予想ができるよう映像を分割して見せた。ただ，分割することで授業展開が忙しくなり，教師の話す時間が長くなった。もう少し生徒が考え発表できる時間を確保できたらよかった。

エ 討議内容

教師の説明やまとめなどをプロジェクターで，生徒の発表内容などを黒板に表す方法は，時間を有効に使うことや内容を整理することにおいて本授業

の取り組みは価値がある。ただ、あらかじめパソコンに入力してプロジェクターに映す方法では、順次消えていく、変更がきかないなどの問題点があり、残していくべきものは黒板に書く、パソコンは言葉で説明することのみ使用する、プロジェクターの代わりに電子黒板を使用するなど、生徒の意識が上がるよう板書とコンピュータのバランスを考える必要がある。また、ビデオ教材の入手方法としてNHKの番組を毎週自動で録画し、必要なものをDVDにおとして使っているが、その際ビデオの映す順番を変えてみる、もう一度同じ場面を見て心情確認をするなどビデオ教材の使用法の工夫も考えられる。



(2) メディアを活用した実践例

ア 各教科

○ 社 会

各国の様子ビデオ・静止画像映写。NHKのCG教材「見える歴史」による昔の人々の生活のイメージ化。

○ 理 科

日食シュミレーションソフトを用いての7月22日の日食の予備学習。音の波形ソフト（フリー）を使用した音の学習。理科ネットや教材集からの動画の活用。

○ 技・家

携帯電話の高所持率による情報モラル教育の強化。教師のコンピュータ画面をプロジェクターに映しての作業内容や課題の表示。

○ 英 語

パワーポイントを使つての学習内容の **Oral introduction** (ピクチャーカードの補助)。教科書掲載の伝統文化などについてインターネット (YouTube など) での調べ学による内容の深化。

○ 国 語

プレゼンテーションソフトでの古典作品資料の提示による古典に親しむ態度の醸成。板書としてスマートボードを利用することによる生徒の意見を反映した授業展開。

○ 美 術

教材提示装置での生徒作品の拡大投影による評価活動。鑑賞活動や制作手法の説明の場面でのパワーポイント活用。

イ 総合的な学習の時間・特別活動

学級旗制作で手書きデザインをデジカメで撮影し、プロジェクターで投影しながら転記したり、集会では、修学旅行や体育祭・文化祭、生徒会活動についてパワーポイントの画像をプロジェクターを使って視覚的な発表をしている。また、インターネットを活用し、高校調べや職業調べなどを行い、進路指導に役立てている。

ウ その他

授業オンデマンド機能を利用して、あらかじめ記録した教師側のコンピュータ操作を必要な時に生徒が画像で確認することができ、各教科・領域でアプリケーションにあわせたマウスやキーボード操作の提示に効果的である。

4 今後の課題

生徒の主体的な学習を促すために、学習内容や生徒の実態などに適したデジタルコンテンツなどの積極的な導入を図り、その有効な活用方法を探っていくとともに、それにあわせ個々の教師のICT活用能力の向上とハードウェアの整備がさらに必要と考える。